

●目標を達成するための計画

《2024 年度以降》

〔子ども学科〕

子ども学の知識や技術を講義、演習の形で学習できるとともに、修得した能力を子どもの保育・教育・福祉の分野で活かせる科目を設置している。また、子どもを理解し、援助するための基礎となる科目を学んだうえで、それぞれの分野の発展科目としての専門基幹科目、子ども学科目、保育専門高度化科目、子ども福祉科目を積み上げて学習する。大学での理論的な学びと教育実習での実践的な学びを往還的に深化させていく。

〔子ども心理学科〕

発達心理や保育、幼稚園教育や心理臨床に関する科目を配置し、基礎的な知識及び現場での実践に結びつく方法論を修得できるようにしている。また、心理学の様々な分野や研究法に関する科目を配置し、心理学の専門的知識と方法論を修得できるようにしている。さらに、心理学の発展的な科目を配置し、インクルーシブ保育、赤ちゃん学、ライフコース心理学に関する知識を修得できるようにしている。

〔教育学科〕

教育学の様々な分野にわたる科目を設置することで、学校教員を目指すうえで必要な基礎的な知識と教授技術を修得できるようにしている。1年次では、現場体験の一環として「学校フィールドワーク」を履修することで、早い段階から教職と学校現場の実際について学ぶとともに、教育に関する思想や制度、各教科の専門的知識ならびに指導法、子ども理解のための方法論などを、講義、演習、実習形式で学習していく。これらの全体を通して、学校教員として必要な知識や技術、子どもや教育をめぐる問題の理解と、その解決方法を学んでいくことができる。

《2023 年度まで》

〔子ども学科〕

子ども学の知識や技術を講義、演習の形で学習できるとともに、修得した能力を保育、幼稚園教育、小学校教育、社会福祉、博物館の分野で活かせる科目を設置している。また、特別演習として「現代子ども学特別演習」を1年次に設置し、各種実習の前に保育、幼稚園教育、小学校教育の現場を体験学習するとともに、子どもを理解、援助するための基礎となる科目を学んだうえで、それぞれの分野の発展科目を積み上げ学習する。

これらの全体を通して、子どもを取り巻く環境、様々な問題や文化状況をめぐる問題の理解と、その解決方法を学んでいく。

〔発達臨床学科〕

発達心理や保育、幼稚園教育や心理臨床に関する科目を配置し、基礎的な知識を修得できるよ

うにしている。さらに、心理学の様々な分野や研究法に関する科目を配置し、心理学の専門的知識と方法論を修得できるようにしている。また特別支援教育に関する科目を配置し、発達障害に関する知識と指導法を修得できるようにしている。

これらの全体を通して、生涯にわたる人間の心理発達をめぐる問題の理解と、その解決方法を学んでいく。